

# 潮騒通信「どっこい生きてます！」

## 五輪選手の活躍に良い意味での競争心を学ぶ

猛暑の夏ですが、皆さま体調など崩していませんか。地球温暖化のせい、ここ数年は昔と比べると暑さ寒さの振幅が激しくなり、高齢者にはとてもこたえます。昔は真夏でも30度を超える日なんて、今ほど多くはありませんでした。私自身は子どもの頃、解放感あふれる夏がとても待ち遠しかったのですが、馬齢を重ねた今は早く過ぎてほしいと願うようになりました。

「あと何年、猛暑の夏を乗り切れるだろうか」と、つい弱気になります。

そんな中で今夏は4年に1度のロンドン・オリンピック（五輪）があり、私もアスリートたちの活躍に深い感動を受けました。世間からは意志の弱いダメ人間、社会の落ちこぼれとされるアル中、ヤク中の私たちですが、人間的な感情はどこかに残っています。選手たちのメダルへの執念やひたむきなプレー、人間の可能性へのあくなき挑戦の背後には、良い意味での競争原理が働いています。より早く、より高く、より遠くへ、より輝くメダルの色へ…という前向きなチャレンジ精神が私たちを感動に導いてくれるのです。

一方、私たちは回復プログラムを実践する中で、競争主義（パワーゲーム）から距離を置くことを教えられています。アディクション（依存症）に魂を支配された私たちは、周囲を巻き込んで「今度こそはやめる」とうそぶき、アルコールや薬物、ギャンブルとの果てしないパワーゲームに明け暮れました。やがてお手上げ（底つき）状態となり、運よくダルクやマックにつながっても、「俺はこんな奴らとは違う」「あんなにひどくない」と違い探しをして、無意識のうちに競争心を燃やします。そうして施設を飛び出してスリップ（再使用、再飲酒）して元のひどい状態に戻り、再び底つきして施設に舞い戻ります。また一からやり直してリハビリに励むのが一般的です。この繰り返しを経て、仲間の中でなら薬物を使わない、酒を飲まないクリーン期間を積み重ねられ、自分も回復できるんだ、と信じられるようになります。

ただ、問題はその後です。施設でのクリーン期間の延長が私たちの回復ではありません。依存症者でも仕事を持って（できれば家庭も営んで）地域社会できちんと暮らせるようになるのが本当の回復の姿です。これには社会の理解と受け皿が求められますが、潮騒JTCはその困難な壁に挑んでいます。私たちは依存症者として自分に正直に、等身大で生きることを基本にしながらも、ほんの一步社会に踏み出す勇気をどうしたら持てるか、その動機付けの難しさに直面しています。それだけに五輪アスリートたちの活躍には大いに学びたいものです。私は今回、自分の限界に挑む選手たちの姿に良い意味での競争心を学ばせてもらいました。 (施設長 栗原 豊)

# SJTC

SHIOSAI JOB TRAINING CENTER

2012年

8月号 一部100円

## Contents

- P1 良い意味での競争心
- P2 潮騒農場で除草作業
- P3 フォト特集・除草作業
- P4 ファイザー農業隊の声
- P5 リュージさん回復物語
- P6 入寮者の声コーナー
- P7 施設の話題&誕生日
- P8 第3回フォーラム告知
- P9 近藤氏インタビュー4
- P10 受刑者からの便り
- P11 しおさい文芸コーナー
- P12 行事予定&献金献品



真夏の日差しの下、入寮者総出で潮騒農場の除草作業に励みました。(P2、3)

# 猛暑の潮騒農場で除草作業に励む

## =施設を挙げてマンパワーの真骨頂を發揮=

### ■開墾した畑を「潮騒猿田農場」と命名

潮騒にとっては初めての取り組みで、大きな意義のある助成事業のファイザープロジェクト。今後の事業展開で中心となる荒れ地の開墾で、見事に再生した実験農場(畑地面積約20㍍、鹿嶋市猿田地区)が、潮騒JTCの支援者で地主でもある増古四郎さんによって「潮騒猿田農場」と命名され、チャレンジの第一弾としてサツマイモの苗を植え付けました。

本通信で既報したように今年4月に、ファイザープロジェクトの職業訓練と重機操作訓練の研修を兼ねて、建設機械と人海戦術によって地中深く張った、しつこい雑木の根を掘り起こし、除去しました。しかし、これだけではまだ農地としては使えません。



そのため、農業者としてプロの増古さんの指導を仰ぎながら、まず開墾した畑の土を天地返して堆肥を加えて、土作りから始めました。そして農業プロジェクトメンバーがマルチ掛け作業に精を出し、ここにサツマイモの苗を移植しました。マルチ掛けとは、土の乾燥を防ぎ、地温を高めたり、雑草が生えるのを抑制するなどの効果があることから、土の表面や株元をポリフィルムで覆うことを言います。

素人集団による初めての取り組みだけに、サツマイモの生育は必ずしも順調とはいえませんが、それでも6~7割の苗が地中に根を張りました。夏場は苗の成長を保護する意味からも、サツマイモ以上に成長の早い雑草に負けないようにするため、これら生い茂る雑草の除草作業は避けられません。農作業の中でも忍耐

力のいる辛い作業の一つですが、みんなでやればわけはありません。マンパワーが真骨頂の潮騒の特徴が生きてあって、8月1日には施設を挙げて草取り作業を実施しました。

農作業は未経験の入寮者も多く、増古さんや農作業プロジェクト参加メンバーの助言や指導で午前10時ごろから約1時間半、全員で畝の間に生い茂った雑草を除去し、畑の端に運んで乾燥させました。最後には開墾の際に周囲の境界に積み上げた雑木の間から生

え出した雑草を枯らすために、農薬散布の作業を体験しました。終了後は、施設の女性メンバーらが手作りしてくれたおにぎり弁当をおいしくいただきました。

増古さんは「猛暑の中、皆さんの協力で迅速に作業を終えることができました。秋の収穫が楽しみです。その後はダイコン作りにも挑戦しましょう」と労をねぎらい。栗原施設長も「こうして皆んなで一緒に農作業に取り組むことができるのが潮騒の強みです」と共同作業の意義を確認していました。

### ■TV局クルーも農作業をカメラ取材

なお、この日は民放テレビ局の取材クルーが作業の様子を取材しました。午後もTV取材クルーが、水田管理を担当する農作業プロジェクトメンバーが取り組む田の草取りの模様を映像取材したほか、増古さんとともに潮騒の心強い支援者の一人でもある根崎彰さんのビニールハウスで、メンバーらが汗だくになりながら取り組むピーマンの収穫の様子も映像取材していました。(3㍻に関連写真、4㍻に感想文)

# 真夏の草取り、噴き出る汗、おにぎり弁当に舌鼓



荒れ地を開墾して農地として再生させた「潮騒猿田農場」は、農業分野に特化する方向性が示されたファイザープロジェクトの生産拠点となります。真夏の強い日差しの下、施設の総力を挙げて取り組んだ除草作業では潮騒の特徴の一つであるマンパワーをいかに発揮しました。農業経験のない入寮者も汗だくになりながら、しつこく生い茂った雑草と格闘し、お昼の手作りおにぎり弁当をおいしくいただきました。

潮騒では畑地だけでなく、北浦湖畔に水田も借りてコメづくりに励んでいます。順調な生育状況とあって農作業メンバーの草取りにも熱が入ります。支援者の根崎彰さんのハウスでは品質の良いピーマンの収穫作業を手伝い、農業連携を深めています。「生活保護受給者から納税者へ」の高い志を掲げた就労支援の事業だけに、メディアの取材も入りました。



# ファイザープロジェクト農作業の声



## ◇順調な生育の稲に待たれる収穫の喜び

8月になり暑さが強く感じる日が多くなってきたこの頃ですが、田んぼの稲は順調に成長して、植えた時期には15匁だった稲が今では80匁にもなり、自然の力に驚かされます。農業経験者の仲間たちの協力で、とても立派な田んぼになってきました。後2カ月で収穫を迎えます。あっという間に始まり色々な事がありました。荒地からの田んぼ作り、作ったけどポンプの水が出ないなど大変でしたが、みんなで植えた稲も大きく育ち、収穫の喜びと美味しさを待つばかりです。最近では新しい仲間も入ってきて作業ができる様になってきたので「嬉しい事も、大変な事も、分かち合える」農業プログラムにしていきたいと思っています。

(ヒトシ)

## ◇ありがとうピーマン、ありがとう根崎さん

素人目には潮騒が取り組む農業の仕事は実に単純に見えます。根崎彰さんの施設園芸農業(ハウス栽培によるピーマン収穫作業)の手伝いで言えば、ある程度まで大きくなったピーマンを選んで摘み取るだけなのです。でもそれは根崎さんたちによる数多くの苦勞の結晶なのです。だからこそ大きな収穫の喜びにつながるのでしょう。正直なところ、慣れない私たちにとってはハウス内の暑さと立ったり座ったり作業はこたえます。それに鈴なりにになっているピーマンを、傷つけず選び取るのもひと苦勞です。

でも、ふと考えてしまいます。「これだけのピーマンを大きくするために、農家の方はどれだけ苦勞してきたのだろうか」と。耕すべき時に耕さないと秋の実

りがないように、作物はたえず気配りを怠らずに手を掛けてきたからこそ、私たちに大きな自然の恵みをもたらしてくれるのです。私達はそのほんの一部分だけをお手伝いしているだけなのに、「暑い」だの「疲れる」だのと泣きごとを言ってしまう。そうは言いながらも結構、楽しんでやっていますけど…。ありがとうピーマン。ありがとう根崎さん。

(シマ)

## ◇猛暑の中でも興味が尽きないピーマン収穫

よく「農作業は単調で時間が過ぎるのが遅い」「とても退屈だ」という声を聞きますが、私にとってはとても興味深く楽しい世界です。先日も猛暑の中でピーマン収穫のお手伝いをしましたが、作業をしながらピーマンは縦に苗が伸びていき、そこからたくさんの実がなっているのが面白いなあ、などと興味がつきませんでした。自然が相手の奥の深い世界なのだと思います。自然が相手の奥の深い世界なのだと思います。楽しくお手伝いをさせて



根崎さんちのハウスピーマンは切っても切っても、大きいのが次から次へと目の前に登場します。子どもをあやすように、慈しみながら一つずつ優しくハサミで切り取ります。ビニールハウスの中は熱いお風呂の中にいるような暑さですが、時折ほどよい風が吹いて気持ちいいです。もしかしたら、根崎さんからすれば足手まといに思えるかもしれない、頼りない助っ人の私たちなのに、いろいろな気遣いや差し入れをもらって申し訳ないくらいです。少ししか作業をしてないので、今度からはもっとテキパキと確実に作業をしていきたいです。ここで身につけた一連の農作業のノウハウを、退寮する事があっても役立つようになりたいです。

(ちーな)

★29歳の時に食道静脈瘤破裂で死にかける～自分が本格的に飲酒にはまり出したのは、高校に入ってからでした。(未成年ですから、それ自体が法律違反でしたが…)最初は美味しい酒でした。でも、就職して責任ある仕事に就いてからは、楽しい酒のはずが、嫌なことから逃げるための酒に変わっていきました。次第に酒量が増え、毎日が二日酔い状態で辛い日々が続きました。それでも仕事があるため、何とか酒を控えるよう努力しました。でも、すべて失敗に終わり、29歳の時に食道静脈瘤破裂で死にかけました。さすがに懲りて1年ほどは酒をやめ、職も変えましたが、またストレスが原因で飲み始めてしまい、結局は昔に逆戻り。自分では何度も酒をやめようと努力はしましたが、失敗の連続でした。仕事も酒が原因となる対人関係のトラブルから長続きしません。職探しの日々が続きました。

でも、これが自分にはさらにマイナス要因となりました。仕事という枷(かせ)が外れたため、酒量が増え、やがて家の中で24時間飲んだくれる状態になりました。それでもまだ「仕事をしなくてはいけない」という観念に駆られ、何とか自力で次の仕事を探し、内定までこぎつけたのです。でも、既に体は限界でした。急性膵炎(すいえん)で緊急入院となり、内定の話も立ち消えて途方に暮れるばかりでした。その時、入院先の病院の先生がアルコール専門病院を紹介してくれて、退院後すぐにそちらの病院に移りました。

約3カ月間アルコールの勉強をして退院しましたが、家に戻っても収入がないので居づらくなり、母の紹介でアルバイトをしました。が、3カ月もするとまた飲酒欲求が出て飲み始めてしまいました。アツという間に元の酒量に戻ってしまいました。母も心配してくれましたが、自分ではどうにもならないと訴え、そのまま家に籠(こも)り、ずっと酒浸りの日々でした。その頃祖父が亡くなり、ますます気が滅入って酒量もさらに増えていきました。もはや自分ではどうにもならなくなっていたのです。

★底つき状態から潮騒JTCにつながる～些細なことで母に暴力を振るい、やけくそで家の中で暴れていました。何回か警察が来て注意されましたが、全く聞く耳を持たず、保健所の人に再入院を勧められても

断り続けていました。もう自分ではどうにもならない底つきの状態に陥っていました。そんな時に幸運にも潮騒ジョブトレーニングセンターにつながることができました。

潮騒に来てからは、とりあえず酒を飲まなくて済む安堵感があり、ホッとしました。しかし、それもつかの間、ある程度、自分の頭が素面(しらふ)に戻るとイライラ感が増え、先行く仲間によく嘔み付きました。

それでも2～3カ月ほどすると心に落ち着きが戻ってきました。が、先々への不安とストレスでスリップしてしまい、自己嫌悪に陥る場面がありました。しばらくして2回目のスリップをしたときには、「施設につながっているのに、なぜ自分はこうも酒に逃げてしまうんだろう」とひどく落ち込みました。その時も飲酒欲求はありましたが、たまたま母が施設に来てくれて、そこで話し合い、「困ったことがあったら連絡してきなさい」と言ってくれて、自分の中で「ああ、まだ家族に見捨てられていないんだ!」という大きな安堵感が生まれました。

★ハイヤーパワーからの贈り物を実感～そこから、自分の中で何かが大きく変わっていきました。それからは飲酒欲求が起きず、ステップに書いてある「まず自分を変える」にチャレンジしてみました。実際にそれを行動に移してみると、なかなか上手くいかず、仲間とのぶつかり合いも多々ありました。その度に自分を顧みて反省の毎日です。

入寮してから2年余り過ぎましたが、振り返ると酒を飲み始めて約25年、夢うつつの中で生きてきたような気がします。本音を言えば、酒を完全に1年間絶った今も、自分を変えるプログラムに悪戦苦闘している状態です。でも、何をするにもまず面倒くさいと思ひ、目の前の嫌な事からすぐ逃げる癖が無くなりになりました。逆に、面倒くさいと思うことを真っ先に片付けようという気持ちが働き、昔のやる気に満ちた自分にだんだんと戻ってきたような気がします。それも自分を助けてくれる大勢の仲間たちがいるお陰だと思ひます。今ではスタッフという立場を与えられ、日々仲間の手助けをしながら、同時に自分も日々少しずつですが、成長させてもらっています。これがハイヤーパワーからの贈り物なのですね。とにかく潮騒の仲間たちには感謝感謝の毎日です。(リュージ)

## 我が回復物語

### 25年の飲酒歴で底つき 潮騒で救われる「リュージ」

## 入寮者の声「横浜ダルクフォーラムに参加して」～ヤマ

### ●横浜ダルクフォーラムでスポンサーを得る

少し報告が遅くなりましたが、6月24日に横浜市内で開かれた横浜ダルクフォーラムに行って来ました。実際に行ってみて、色々と勉強させられましたし、新鮮な気持ちにもなりました。横浜ダルクでやっているミーティングのやり方を見て、こういうやり方もあるんだなあと思い、自分も朝・昼・夜のミーティングで司会をしているので、取り入れていこうと思いました。また仲間のオープンスピーカーを聞いて、家族のフェロシップがいかに大切かを知りました。でも、自分には家族がいません。両親は他界しましたし、兄弟もいません。その中で自分に、今家族だと思えるのは潮騒 JTC にいる仲間たちだと思っています。今は、施設に居る仲間を大切に、もちろん全国、世界各国にいる仲間もそうですけど、より一層親密になって回復へと共に過ごしていきたいと思っています。

そして、自分にとって横浜ダルクフォーラムでの一番の収穫は、自分に、スポンサーを持つ事が出来た事です。自分のスポンサーは千葉県にある施設の、スタ

ッフをしている方です。自分がここ、潮騒 JTC からその施設に行った時に自分のことを親身に接してくれて、色々と相談にも乗ってくれました。そんな中で自分には色々と感じる所があり、自分がスポンサーを持たないといけないと思った時に、真っ先に思った人がその方でした。そして、横浜ダルクフォーラムで再会した時にお願いをしました。そしたら、「オレは何事にも反対するよ」「それでもいいならいいよ」と言われました。でも、自分にはそういう人が必要だと思っていたので「それでもいいです。お願いします。」と言いました。そして引き受けてもらいました。

自分にもスポンサーを持つ事ができて、これからは自分が生き詰まった時や悩みを抱えた時などに相談をし、アドバイスなどをしてもらえたらいいなと思います。とにかく横浜ダルクフォーラムに行って新たな気持ちになれたし、得る物も沢山あったので、これからも色々なイベントに積極的に参加していこうと思います。



(ヤマ)

### ●ファイザープロジェクトの農作業に参加して

潮騒ジョブトレーニングセンターに入寮して人生初のボランティア活動で、サツマイモの苗を植えました。東京の下町生まれの私には今まで縁が無い作業だったので、始める前は何だか重い気持ちでした。しかし、作業が進むにつれ、楽しさが増えてきました。

最初の数本は説明通りに竹の棒で15センチほど穴を空け、一本ずつ丁寧に植え込みましたが、リズムをつかんだ私はほかの仲間負けじと、嵐のような連打で穴を空け、「ポン、ポン、ポン」と苗を差し込み続けました。全体の5番目位でゴールしましたが、穴の中の苗がヘラヘラと動いている様でした。2カ月後、この畑の草取りを行いました。全体的に苗の育ちが悪く、植え方次第ではもっと成長していたかもしれません。しかし被害の3分の1はカラスに寄るもので、何だか悲しい気持ちになりました。

このボランティアを通して、農家の人たちの苦勞と食べ物の大切さを学び、また私自身の仕事に対する考え方の欠点も見えました。依存症の回復とともに私自身の欠落した部分を正し、人間性の向上を目指そうと想います。

(ムラ)



重機を使って荒地を開墾して畑地に整地し、潮騒農場に。第1弾としてサツマイモを植え、今秋には収穫を予定します。

## 施設の話あれこれ

### 綿菓子、ポップコーン、かき氷をサービス

えや稲刈りなどに力を入れています。この日は、地域

潮騒JTCが地元交流を進める「プー横町保育園」(鹿嶋市平井、代表・山下佳子さん)で7月27日、夏祭り(夕涼み会)があり、潮騒では子どもたちに人気の綿菓子やポップコーン、かき氷の製造機を持ち込み、担当した入寮者らが童心に帰って子どもたちへのサービスに務めました。



の皆さんの参加者は少なかつたものの、子どもたちは敷地の一角を占めた潮騒の露店に順番に並び、潮騒メンバーから綿菓子などを受け取りました。やはり猛暑とあって、かき氷がひときわ子どもたちの人気を呼びました。

同保育園は、いわゆる認可外保育施設ですが、行政から認可された保育所では対応しきれない多くの役割を果たし、地域の父母らを下支えています。自然とふれあう活動が盛んで、親子田植

栗原施設長は「潮騒が今後、この地域にもっともって根付いていくためにも、プー横町保育園さんとは仲良くして、交流を深めたい」と意欲を見せていました。

### 社会で暮らす仲間から貴重なメッセージ

不定期ながら潮騒入寮者の回復活動に大きな示唆を与えるアディクション研修セミナーが7月29日、鹿嶋市宮中の市まちづくり市民センターであり、アルコールやギャンブル依存症の自助グループで活動する外部メンバーらが心に熱く響くメッセージをしてくれました。



この取り組みは、NPO法人・潮騒の理事でもあるAAメンバーのケイイチロウさんの尽力により開かれています。地域社会で仕事を持ちな

がら、回復を目指している仲間の話が聞けるのは貴重な経験だけに、毎回入寮者には好評を得ています。

この日は、AA女性メンバーの飲酒による過去のきたんのない体験談や、GAにつながるギャンブル依存症の仲間による借金苦の実態が話されました。潮騒の入寮者らは「あそこまで話せるのは回復の素晴らしさ。しかも施設ではなく社会で回復しているのが凄い。とても刺激になり、これが本当のメッセージだと思います

知りました」などの感想を漏らしていました。

## 8月誕生日の仲間たち



左からセイジ、ちーな、ガクの皆さん

### 三つ折りに

夢に出る吾がふる里の恋しかり 北の大地に  
早や二年過ぐ/迷いつつ時は過ぎゆく悔みつつ  
また過ぎてゆく吾の人生/誰からも忘れ去られ  
たような夜隣の部屋に暮らした聞こゆ  
文芸コーナー常連、北海道・章三郎さんの作品  
です。毎回たくさんの秀作(俳句だけでなくこ  
うした短歌も)を投稿していただいています。ス  
ペースの関係から紹介しきれませんが、潮騒ではこ  
うした文芸活動を推奨し、施設生活に特徴を持た  
せています。今後は積極的に施設内で句会や選者  
桐本岩見先生の講話などを開いていく予定です。

第3回となる潮騒JTC公開フォーラムを今年も以下の要領で開きます。今回は2部構成で、1部(午前)は現在取り組むファイザープログラム助成事業(潮騒ファイザープロジェクト)についてのフォーラムとし、2部(午後)では恒例の一般フォーラムとなります。皆さま、お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

# 潮騒・ファイザープロジェクト&第3回フォーラム

## ニテーマ「成長…仲間と共に」ニ



日時：2012年11月11日(日曜日)  
午前10時～午後4時15分  
会場：レイクエコー(茨城県女性プラザ、  
鹿行生涯学習センター)  
茨城県行方市宇崎 1389  
電話 0299-73-3877  
主催 NPO法人・潮騒ジョブトレーニング  
センター  
後援 茨城県精神保健福祉センター、茨城  
県潮来保健所、鹿嶋市、茨城新聞社  
常陽新聞新社、FMかしま、他  
(予定)  
※会場は宿泊が可能です。事前に電話で  
レイクエコーにお問い合わせください。

NPO法人 潮騒ジョブトレーニングセンター  
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10  
TEL: 0299-77-9099/FAX: 0299-77-9091  
E-MAIL: k.s-darc@orange.plala.or.jp

当日のプログラム(予定)

<午前の部>  
～ファイザープロジェクトフォーラム～  
9:30 開場  
10:00 開会行事(来賓挨拶)  
10:15 ファイザープロジェクト報告  
10:45 プロジェクト基調講演(識者)  
11:30 ファイザー体験発表(入寮者4人)  
12:10 昼食休憩  
<午後の部>  
～第3回潮騒JTC公開フォーラム～  
13:00 横浜・川崎ダルク応援エイサー  
13:30 潮騒バンド・オンステージ  
14:00 潮騒JTC活動報告(動画上映)  
14:15 仲間の話(入寮者)  
14:30 休憩  
14:40 講演(日本ダルク・近藤恒夫氏)  
15:30 各ダルク・応援メッセージ  
16:00 栗原施設長謝辞  
16:15 閉会

# 近藤恒夫氏インタビュー「薬物依存と回復の権利」VOL4

12ステップのプログラムがなければ、僕は途方もないところに行っていたと思う

—北海道でマックの活動を支援してきた近藤さんが「アル中が回復できるならヤク中だって回復できるはずだ」として、1985年に東京・荒川区にダルク第1号を立ち上げますよね。当時はヤク中に対してどんな状況だったんですか？

**近藤** 当時はアル中でさえ社会のお荷物、厄介者の扱いだったから、ましてや「ヤク中の回復なんてありえない」が専門家の世界でも“常識”だった。実はダルクに先だってカトリック教会の神父がリハビリ施設を試みたけど失敗した苦い経緯があって、薬物依存の回復はリスクが大きいから誰もやろうとしなかった。当時、アディクションの世界では知られた精神科医の斉藤学さんだって「近藤さん。やめた方がいい。あんたがつぶれるよ」って反対した。僕の同伴者だったロイさんだって難色を示していたくらいだもの。

—ただマックで働くうちに、僕はヤク中なのになんでアル中の世話をしなきゃならないんだっていう不満が大きくなった。アル中の人たちにはマックのような回復施設があるからいいけど、ヤク中は受け入れてくれるところがなくて排除されていた。これって差別でしょ。僕自身が薬物依存者だから、そういう人たちでもマックのような施設があれば回復できるはずだ、と思ってたからね。

—で、みんなが反対するから頭に来てね。僕はへそ曲がりだから「じゃあヤク中の俺も回復できないってことかよ」って。「アル中は回復できるけどヤク中はできないっていうのは差別と偏見だ。ヤク中だって回復施設あれば…、よーし、そんなら俺が自分の手で作ろう」って発奮した。

—その秘めたるパワーが力になって、日本で初めて

日本人の当事者による試みとして、近藤さんから薬物依存の人たちをケアするという動きが始まったわけですね。それから27年の歴史を刻んでいます。振り返って、人権という側面で立ちはだかった壁というのは何だったですか？

**近藤** その質問にうまく答えられるかは別にして、人権を振りかざすことに僕たちは一つ考えなければならぬ大きな問題がある。僕には決して順風満帆ではなく波乱に満ちたダルクの歴史だったけれど、やっぱりあのままいたら僕は大変なことになっていたと思う。というのもダルクはすべてがゼロからの出発だから、僕の取り組みが歴史を作ることにつながる。このことに対する謙虚な自覚というか、常に自分を薬物依存症の回復者として内省する冷静な視点をなくしてはならないと、一貫して考えてきた。

僕は決して自分が薬物依存のパイオニアだなんて言うつもりはないんだが、何しろ後にも先にも僕しかいないわけだから、良い悪いは別にして僕のやり方というか考え方がダルクの歴史になる。じゃあ、僕には何があるかといえばマックでの回復経験と、それを下支えする回復のプログラムだけでしょう。

もし、回復のプログラム(12ステップ)がなければ、僕は途方もないところに行っていたと思う。政治家や財力を持っている人たちとつながって、いろんなこと(金儲け)をやっていたかもしれない。パイオニアという存在は道を間違えれば、いつの間にか権力者のようになりかねない。ダルクの活動の目標が苦しんでいる薬物依存者を手助けすることなのに、今度はそれらの人々を相手に商売にするようになりかねない。するとそれは止まらなくなるよ。(次号に続く)



## 受刑者のみなさんからの手紙～「潮騒通信」を読んで～

### ■生活目標の標語が第1位に選ばれ感動得る

仮面接があり、面接官からきつい叱責を受けてしまいました。以前に組長さんだった人との交流についてです。相手が相手ですので内容がよくありません。(中略)面接官の立場からすれば当然です。それが仕事なのですから、私が何を云っても信用されなかったようです。折角、S先生と栗原さんが親身になって下さっておりますのに台無しにしてしまったようで本当に申し訳ない気持ちで一杯です。最後に一言と聞かれ、仮釈でも例え満期になったとしても、栗原さんのところにお世話になり、まずはダルクの12ステップの勉強に真剣に取り組む気持ちに嘘、偽りは無いことを伝えました。

ところで、私の考えた生活目標の標語が第1位に選ばれ、賞をいただくことが出来ました。230作の中での第1位とのことで、感激しました。私の居る工場から長いこと人選がなく、頑張っただけで狙うよう、班長なのだからと担当さんから云われ、用紙が入って、真剣に休日に考えた結果でしたので、とても嬉しく思います。(笑)その標語は「慣れと油断が見逃す危険信号 基本厳守で安全作業」です。(北海道・OK)

### ■潮騒通信に勇気づけられ、頑張ろうと思う

私は潮騒通信の中で特に全国の受刑者からの手紙に感心があります。それは、同じ悩み、苦しみを抱える人が大勢いる。自分だけではない。そう思うことで、勇気づけられ、頑張ろう、負けないぞ、と思えるのです。そして同じ状況に置かれている人達がどんな考えでこれからどのように行動をして止め続けて行くのかを知り、自分はどのように行動していくべきなのか、などを考えてきました。潮騒通信にはとても助けてもらったと思っています。私の考えは以前と変わらず、何らかの形で潮騒ジョブトレーニングセンターと係わることによって気持ちを抑えていけると考えています。出所したらまずは、そちらに伺いますので、話を聞かせてください。(鳥取県・IA)

### ■エンさんとジョーさんの文章に共感、胸熱くなる

潮騒通信5月号の「我が回復物語」を、回復途上の依存症者の貴重な体験談だと思い、読ませて頂きました。(中略)私が18歳の時に不良仲間と一緒に遊んでいても、合法的な遊びでは面白くなく全く興味がありませんでし

た。シンナーから覚せい剤と、犯罪性が深まる事の先の好奇心にワクワク心が大きく揺れ動くのを感じていました。いつしか法律を破り覚せい剤を使って快楽を味わう事が体の刺激でもあり、さびしかった私の心の拠り所になってしまったように思えます。

それだけにエンさんとジョーさんの文章を読ませていただき共感し、学び、気づき、そして胸が熱くなりました。依存症者の体験談に共感出来るのは、私自身が薬物に苦しみ失敗しているから判る事なんだと感じました。平成23年2月号の潮騒通信で栗原さんが「うまくプログラムが受け入れられない彼らは私にとって自分を映す鏡です」と、とても謙遜な気持ちを述べておられます。その言葉の意味を改めて感じさせられ、同じ依存症を持つ人は私にとって自分を映す鏡だと思い、その姿を手本にして回復していこうと思いました。(東京都・KH)

### ■どっちが本当の自分なのか時々分からなくなる

このような環境に置かれていると、やはり外部との繋がりを求めたくなります。そんなもの要らない、一人で生きていくという強い人もいますが、私みたいに弱さを抱えている人が大半だと思います。なので、栗原さんの言葉にはとても勇気づけられます。

実はあきらめ的な気持ちもありました。「自分は覚せい剤なしでは駄目かもしれない。長く売買にも携わってき、金銭を得る手段としてもどっぴり漬かってきたので止めるのはもう無理だろうな」と。覚せい剤が効いている自分、抜けている自分、いったいどっちが本当の自分なのか時々分からなくなります。私の場合、覚せい剤を使うことで自分自身を保っていたとも言えます。暴力団という衣を笠にして、薬を買い求めてくる者達にチャホヤ扱われることが当たり前だったので、かなりの自己中心な思考でした。

それが一転、暴力団をやめ、薬をやめている今、利害なしの対人関係にどこか気後れしたり、素面の自分に自信が持たなくなっています。加えて、大した人間でもないクセに他人を見下しているところもあり、自己嫌悪を覚えます。そんな自分について腹を立ててしまい、素顔のまま生きていけるかな、と日々悩んでいます。栗原さんの過去はどうでしたか？ 良ければ今度その辺りのことを聞かせて欲しいです。(北海道・IK)



# しおさい文芸

選者 桐本石見



## 時鳥百歩の距離の鹿島灘

潮騒・豊

古来、春の花、夏の時鳥、秋の月、冬の雪が四季を代表する詠題とされた、この鹿島潮来では今でもその声を聞ける。ただその書き方は、不如帰、子規、杜鵑などある。その時鳥の声に近くの鹿島灘への散歩か、海も夏を迎えて青く清々しい句です。

## 夏野菜届けて無口老農夫

潮騒・豊

夏野菜は胡瓜、茄子、新じゃが、レタスなど緑が濃くて清々しい、それを届けて呉れた老農夫、お礼に何かと話したいが無口で取り付き難いが、そこがまた実直な善い農夫に思える。農婦なら女同士で話も弾むかも。俳諧の少しの笑みを誘う句です。



神様の涙というドロップを 口に含めば梅雨空の味  
ゆつくりと鏡に変わる夕暮れの 列車の窓に映る涙目  
涙さえ明るき春の味になる 新玉葱を刻みておれば  
(広島・泰延)

## 夕星の空に張りつく残暑かな

北海道・章三郎

今年の夏の猛暑日もこのところ涼しいが案外に立秋を過ぎたころに残暑が厳しくなる年がある、空気が乾いて日差しが透く様になり肌に刺さる思いもする、しかし夕方に星が見える頃になると暑い中にも秋の立つを覚える。「張りつく」と言う表現も大空を思う句です。

## 蝦夷杉の中より夏日射す如し

北海道・章三郎

杉には地名を冠した、屋久杉、吉野杉、北山杉、秋田杉などありますが、この句の蝦夷杉はどの様なものか、いずれにしても杉木立の中に夏の陽光が射す景、蝦夷は古代の奥羽から北海道の古称で主に今の北の大地。何年か前に訪ねて懐かしい句です。ただ句は「如し」をやめて、「蝦夷杉の木立や処々に夏日射る」などと現在進行形にすると実感の句になります。



# Information

## 行事予定 (8月中旬～9月中旬)

- 8月17日 潮騒・海水浴プログラム
- 18日 秋元病院メッセージ
- 20日 新宿とまりぎアルコール問題相談業務
- 24～28日 北海道浦河町ペデルの家視察研修  
(ファイザープロジェクト関連)
- 26日 潮騒・8月家族会
- 27日 潮騒入寮者8月誕生日会
- 9月1日 潮騒・アルコール問題セミナー
- 9日 秋元病院メッセージ
- 16日 秋元病院メッセージ

## 編集・発行

特定非営利活動法人

潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱34号

〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台210-10

TEL/0299-77-9099 FAX/0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム(中施設)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱56号

〒311-2213 茨城県鹿嶋市中2773-16

TEL/0299-69-9099 FAX/0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス鉾田

〒311-2113 茨城県鉾田市上播木1113-39

E-MAIL [k.s-darc@orange.plala.or.jp](mailto:k.s-darc@orange.plala.or.jp)

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

## 献金・献品を頂いた方々 (7月中旬～8月中旬)

### ▼献金を戴いた方

早川医院 様  
 山下 圭子 様  
 (ブー横町保育園)  
 大槻 展子 様  
 富井 健夫 様  
 内堀 高良 様  
 坂西 ミヤ 様  
 石井 照明 様  
 平田 幸子 様

### ▼献品を戴いた方

宮崎ダルク 様  
 岩田 けい子 様  
 根崎 実千代 様  
 高田 武義 様  
 上田 靖 様

☆そのほか匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させて頂いております。どうぞご理解の程をお願いします。

【お願いします!】潮騒JTCでは使わなくなった中古パソコン、中古の車いす、中古自転車などの献品を求めています。回復活動や日々の生活に必要なので、ご協力ください。

## 編集後記

旧暦のお盆を過ぎると、さすがに秋の気配が感じられる日もあるのだが、果たして今年はどうだろうか。ともあれ、「依存症の回復には盆も正月もない。“今日一日”をモットーに、ひたすらクリーンの日々を積み重ねるだけ」というリハビリ施設での生活。確かにそうなのだが、潮騒は家族や親族に見捨てられた人たちが多しリハビリ施設だけに、そうした入寮者の郷愁は人一倍強いのではないだろうか。本号でリュージさんが「家族」とのつながりが回復の動機付けになったことを打ち明けているが、実態としての家族が既に無く、あるいは家族から縁を切られた人たちにとっては潮騒が大きな家族となればと願う。やはり人間は一人では生きられない。疑似家族だとしても、本物の家族よりも強い絆が潮騒に生まれることを期待したい。(市)

発行所 郵便番号一五七〇〇七三  
 東京都世田谷区砧六―二六―二一  
 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会  
 (会費を含む) 定価一〇〇円

今月も多くの方から献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。